

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102948		
法人名	医療法人 椿クリニック		
事業所名	グループ・ホーム つばきの里		
所在地	松山市古川北1丁目25-24		
管理者	泉本 厚子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号	(電話)	089-921-8353
訪問調査日	H19.6.7	評価確定日	H19.8.6

【情報提供票より】(19年5月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14 年 12 月 6 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	18 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	0 円
または1日当たり 1,100 円				

(3) 利用者の概要(5月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2		4 名	
要介護3	7 名	要介護4		3 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86.5 歳	最低	71 歳	最高	104 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 (あり)・なし	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは県道より少し中に入った新興住宅地に位置し、鮮やかなオレンジ色の2階建てである。前庭は広く、駐車場やホームのイベントに使用でき、周囲に緑の立ち木や季節の花が植えられ、静かで長閑な環境は、利用者にとって安心で落ち着く空間である。近隣にある母体の病院と同じ事業所のホームとは常に医療と介護のスムーズな連携を図り、利用者や家族にとっては安心できる。地域のNPO法人の活動をホームの行事に組み込み、地域との交流の中で、そうめん流し、運動会、餅つきなど利用者の楽しみと張り合いとなっている。職員は勉強会や研修会に積極的に参加し、また、他事業所と見学し合うことで力をつけ、日々のよりよいケアに活かしている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
外部評価の意義を十分に理解し、管理者・職員全員で課題をミーティングで意見交換し、検討を重ねて改善に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
運営者・管理者・職員全員が評価の目的と意義を十分理解し、職員全員がそれぞれ自己評価に取り組み、お互いの意見交換を通して振り返り、日々のよりよいケアにつなげている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
市職員、地域住民、家族などを招き、2か月毎に開催し、参加者の要望や意見が出やすい雰囲気心がけている。討議内容は、地域におけるホームの紹介、ターミナル・ケアについて、母体病院院長作成のマニュアルを基に同ホームの取り組みについて話し合い、会議の内容から見直しや改善点を見出し、日々のよりよいケアにいかしている。尚、地域住民の参加者を様々な分野のグループの中から募ることを期待したい。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
家族の訪問時にはその都度報告し、変化に応じた要望をきめ細かく聞き取っている。遠方の家族にはファクスで対応している。また、家族会の食事会では和やかなリラックスした会話から不安や要望・意見を読み取り、運営に活かしている。
▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
ホームの前庭で開催するそうめん流しのチラシを配ったり、散歩時に声をかけ、運営推進会議で呼びかけ参加を促している。自治会に入会し地方祭に参加、また、小・中学校の施設見学を受け入れ、地域との交流に努めている。災害対策のためにも近隣住民に協力を呼びかけていくことが望ましい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに○を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 1F

記入者(管理者)
氏名 泉本 厚子

評価完了日 19 年 5 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスについて事業所全体で話し合い、それに基づいた理念を掲げている。 (外部評価) 地域密着型サービスの役割を事業所独自の理念として作り上げ、分かりやすい具体的目標を玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 申し送りやミーティングの際に、理念に基づいて、具体的なサービスについて常に話し合いを行い意識統一をしている。 (外部評価) 職員採用時には必ず理念について説明し、管理者・職員全員が理念を意識し、ミーティングで常に振り返り実践に活かしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入所時や、運営推進会議で具体的に説明を行い理解を深めようとしている。	※	民生委員や町内会の方に協力を促している。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近くのパン屋さんや和菓子屋さんや顔なじみになっている。また、公園への散歩の際などには積極的に近所の方とコミュニケーションをとるようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) そうめん流しや地方祭などの行事の際にチラシなどを配り地域の方に参加を促している。また、地区の盆踊りなどへ参加している。 (外部評価) 「そうめん流し」などホームの行事はチラシで地域の人たちに呼びかけたり、自治会にも入会して地方祭に参加している。また、小・中学校の施設見学を受け入れるなど、地元の人々と交流に努めている。	※	地区の行事へ積極的に参加をし交流を深め、つばきの里の行事へも参加を促していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 管理者が民生委員などにはたらきかけ、認知症・グループホームの事など理解していただくよう心がけている。	※	町内会・老人会などへのはたらきかけを積極的に行なっていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全職員が自己評価・外部評価を実施する事の意義を理解できている。また、前回の評価をもとに改善に努めている。 (外部評価) 職員各自で自己評価に取り組み、ミーティングで運営者・管理者も含め全員が検討し、サービスの向上につなげている。自己評価とともに外部評価の意義を理解し、結果を活かして改善へ向け取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎に運営推進会議を行い、様々な意見の交換を行っている。 (外部評価) 市職員、地域包括支援センター、民生委員、利用者家族などを招き、2か月毎に開催し、ホームの紹介、ターミナル・ケアについて、参加者から質問や要望を聞き、サービスの向上に活かしている。	※	積極的に会議への参加を促し、(家族・職員・地域住民) ケアサービスの質の向上につなげている。 地域住民の参加層を婦人会・老人会等にも呼びかけ、地域の中でのホームの働きの理解と協力が得られるよう、働きかけを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営をしていく上であるいは、サービスの提供について、分からない事があればお尋ねし、アドバイスいただいている。 (外部評価) ミーティングで挙げた課題について相談したり、ホームの現状について話し合うなどを通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会などに参加し、理解を深めている。また、利用者への必要性についても話し合いを設けている。		研修会に参加した職員は、ミーティングの際に他の職員に説明を行い、全職員が制度について理解するようつとめている。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的・精神的・放置的虐待を見逃さないよう職員間でチェックしあい、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) サービスの開始・変更・停止を行う場合には、しっかりと説明を行い納得していただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談記録書を活用し、改善に役立っている。		家族さんとのコミュニケーションを密にし、意見・不満・苦情を訴えやすい環境を造っていく。また、それを基にQOLの向上につなげている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の方の状態や、ケアプランなど来苑時に説明を行なっている。(日々の様子などは電話でも連絡している) (外部評価) 定期外にも家族の訪問の都度、利用者の日々の様子について写真や「ホーム便り」などを用いて話し、また健康状態など伝え、金銭出納簿の報告もしている。遠方の家族にはFAXで対応している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方とのコミュニケーションを積極的にとり、意見・苦情を聞きだす努力をしている。 (外部評価) 訪問時や家族会時の食事会などで積極的にコミュニケーションをとり、和やかな雰囲気の中で意見や思い、不満を汲み取り、運営に反映させている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや勉強会など、職員が自由に意見を言い合える場を設け、意見交換を行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 出来る限り利用者・家族の方のニーズに合わせた勤務体制が取れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の入れ替わりをできるだけ避け、新しい職員が入ったときには、他職員がフォローしてなじめるようにしている。 (外部評価) 勉強会や研修会で力をつけ仕事への自信につなげることで、離職を防いでいる。やむを得ず異動の場合は、職員間の引継ぎを密にし、利用者とのコミュニケーションをとり、不安を与えない配慮をしている。	※	新しい職員には少しでも早く馴染んでもらえるよう、積極的コミュニケーションをとるよう指導している。また、それが、逆に不穏をひきおとさないように、工夫している。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会などへの参加を促したり、勉強会・ミーティングを行い、職員の質の向上に努めている。 (外部評価) パートを含む全職員参加を心がけて勉強会を持ち、母体病院院長を講師にターミナル・ケアの理解と医療体制に対する意識とケアの統一を図り、職員を育てている。		常勤・パートといった勤務形態にとらわれず、質の向上の為、今後も研修会・勉強会への参加を促していく。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会への参加や、運営推進会議へ他事業所の方へ出席してもらい、意見の交換を行っている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入し、研修内容をミーティングで報告し共有している。地域の他事業所と見学し合ったり、ボランティアによる指導や音楽療法を取り入れることで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		事業所間の交流を深めている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者・ユニット長が個々の職員の話聞き、各自のストレスの理解に努め、運営者にも連絡・相談を行い、工夫できるようにしている。		管理者・ユニット長は職員の声に耳を傾けるよう努めている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は日常の業務の報告をこまめに聞き、個々の職員の状態を把握し、アドバイスしたり、勉強会・ミーティングを行い、向上心を持って働けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前面談を必ず行い、本人の訴えを確認している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	(自己評価) 入所前面談を必ず行い、困っている事、要望といった訴えを確認している。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談の際には必ずケアマネージャーさんにも立ち会ってもらい、提供すべきサービスのついて相談している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ショートステイの利用を進めるなど工夫している。急の入所となった場合には家族さんとの連絡を取り、面会に来ていただくなどしている。 ----- (外部評価) 家族と密に連絡を取り、本人と共にホームの見学から始めたり、開設したショートステイの利用を奨めることから徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 掃除や調理など同じ時間を過ごし、お互いを共感できるようにと取り組んでいるが、日々の業務に追われまだまだ十分でない。 ----- (外部評価) 利用者は人生の先輩であるとの思いをもって、利用者に生け花を教えて貰ったり、食事の準備や後片づけなどを一緒にしている。散歩、入浴、買い物時のおしゃべりを楽しみ、支えあう関係を築いている。	※	利用者の方々は人生の先輩である事を忘れず、お互いが支えあう関係作りができるよう工夫していく。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事への参加や家族会を行い親睦を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族の方が、同じ思い出が作れるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい、居心地の良い空間作りをしている。		本人との会話の中で出てきた人名や場所などを確認し、その場所に行ったり、面会に来てもらうなど支援している。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者が共に過ごせる空間作りをしている。また、職員が間に入る事でトラブルの回避にも努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 同グループのデイケアや訪問看護を利用できるようケアマネージャーさんと相談している。また、面会に行ったり、家族の方の相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り個々の意向に沿った対応に努めている。また、自己決定を尊重している。 <hr/> (外部評価) 入浴時や就寝前に利用者の担当職員による話し合いや送迎のおしゃべりから、訴えや要望、不安を個別に把握するよう努めている。		個々の訴えをよく聴き、その訴えにある本質的な要望や不安、悩みなどを捉えている。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前、もしくは入所初期に本人・家族にアセスメントを行い書類に記入し、全職員が把握するようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々の残存能力や身体状況を見極め、生活歴に基づいた、その人らしい生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の心身状態、家族の方の意見・要望を全職員が把握し、その人に合った、その人らしいケアプランを作成している。 (外部評価) 現在に至るまでの生活歴を参考に、本人・家族の思いや意見、要望を把握し、スタッフ会議で検討し、本人が自分らしく暮らせるよう、意見やアイデアを反映させた個別の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) カンファレンス・スタッフ会議にてモニタリングを行い、本人の状態に応じて見直しを行なっている。 (外部評価) 定期的見直しは3か月ごとに行っているが、日々の変化に応じ、本人・家族の要望や意見を取り入れ、現状とズレがないようその都度見直しを行っている。		カンファレンス・スタッフ会議にはケアマネジャー・看護師・栄養士といった他職種の方にも参加してもらい、本人・家族の方の意見・要望を取り入れた見直しを行なっている。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はもちろん、気付いた細かな点も記録に残している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ショートステイや同グループのデイケア、訪問看護によって支援している。また、本人の状態に応じ、通院介助、医療連携によるグループホームでの看取りにも携わっている。 (外部評価) 本人や家族の状況とその時々々の要望に応じて職員がお見舞いしたり、同法人のデイケアや訪問看護による支援、近隣の高齢者のためにショートステイを開設するなど、多機能性を強化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 音楽ボランティアの取り入れや、防災・避難訓練を行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 外出の際にボランティアの支援をお願いしたり、栄養士、看護師等のアドバイスを頂いたりしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議等にて意見交換を行っている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の椿クリニック、および協力医療機関の井伊歯科を受診している。また、本人・家族の方の希望の他の医療機関の受診も行なっている。 (外部評価) 運営方針である医療と介護の連携を図り、毎日利用者の健康状態を母体病院へ報告し、24時間体制をとっている。また、精神科、歯科医院の受診を支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 近所の心療内科へ受診し、診断・相談できる体制を取っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 椿クリニックの看護師と協力体制をとっている。また、ベテル病院の訪問看護師による定期訪問看護を行なっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 医療機関との連絡を密にし、退院しても安心して過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時に見取りについて説明を行なっている。また、指針、援助内容などマニュアルを作成している。 (外部評価) 入居時に必ず本人と家族にターミナル・ケアについて説明している。母体病院院長作成のマニュアルを基に対応とケアについて、運営者、管理者全職員で学習会を持ち方針を共有している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 勉強会やチームミーティングにて検討し実施している。また、院長先生や看護師との連携により支援している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族や転居先の職員へ情報提供している。また、介護要約書(サマリー)を作成し、書面でも情報提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないよう配慮した言葉かけを行なっている。また、個人情報においてもプライバシーの保護に努めている。 (外部評価) 管理者、職員はプライバシー確保の大切さをミーティングで確認し、十分理解しており、食事の介助もさりげなく支援しており、声かけや会話にも気をつけている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員と利用者間に信頼関係を築き、意見・要望・苦情等を訴えやすい、また、自己決定しやすい人的環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の状態に応じて対応している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの担当者が就寝前に話し合ったり、入浴時の話の中で本人の思いや不安を聞き、希望に添うよう支援している。		個々の生活のペース・個別性を尊重し、利用者本位の生活が営めるよう支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的に美容院に行き散髪してもらっている。気分転換にもなり、利用者の表情もウキウキしている。身だしなみも本人の意向を尊重している		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力に応じて野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳など協力してもらっている。食事中も会話をしたり、音楽をかけるなどしている。 (外部評価) 利用者の誕生日の献立に好みを取り入れ、利用者と職員は同じテーブルで会話を楽しみ、食前の盛り付けや食後の後片付けを職員と一緒にやっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 健康面での制限がない方に対しては出来る限り好みを尊重している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターンを確立し、声掛け・誘導を行なっている。		身体状況・排泄状況をモニタリングし、排泄パターン、オムツの使用など見直しを行っている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日は本人の希望を尊重している。また、入浴中も会話をしたり、歌をうたうなど楽しめる工夫をしている。 (外部評価) 2日毎の午後の入浴を基本にしながら、本人の希望を優先し、おしゃべりしながらリラックスして楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態を考慮し、安息、安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 役割を持つ事で社会の一員であることを認識してもらう。また、体操やゲーム、手作業など余暇時間の充実を図っている。 (外部評価) 利用者の特技や好きなことを活かして、生け花を教えて貰い皆で生けたり、歌の好きな利用者同士で合唱することを支援している。毎年開催の運動会では、利用者が鉢巻をして楽しみ、張り合いとなっている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には職員が管理しているが、買い物・外出時には個々に所持、使用できるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者の状態、様子・気候に応じて、散歩・ドライブなど外出できるよう心がけている。 (外部評価) ホーム前のパン屋や近所の菓子屋に行ったり、スーパーでの買い物を楽しんでいる。また、散歩や公園に出かけ、数か月に1度の美容院通いも利用者の楽しみになっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 出来る限り希望に添えるよう工夫している。家族の方の協力も得ている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、手紙のやり取りは自由に行なえるよう支援している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 居心地の良い空間作りを心がけ、家族の方、友人が自然に訪問できるよう配慮している。面会時間は設けていない。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 院内・外勉強会などで学び、理解できている。また、身体拘束をしない為に様々な工夫を行なっている。		安全=拘束という考えにならないように、ミーティング等で確認している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけ閉じ込めてしまうことの弊害を職員は理解できている。個々の行動パターンを把握し、個別の見守りを行なっている。 (外部評価) 玄関にセンサーを付けているが、職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者一人ひとりの行動パターンを把握したうえで居場所確認に努めている。		職員同士で連携をとり、利用者一人一人の居場所・状態を確認している。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日常生活の中でさり気ない声掛け・見守りを行う事で把握している。また、夜間は定期的に巡回を行い様子観察している。		安全を優先しすぎて個人のプライバシーを侵害しないよう配慮している。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 保管・管理は個々の状態、そのときの状況に応じて行なっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 様々な事故を防止する為、個々で、チームとして知識を得て、リスク回避に努めている。		ヒヤリハットを書く意義、その重要性を全職員が理解し、活用していく事で予防対策を検討している。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 母体である椿クリニックにて勉強会を開き、応急手当、初期対応が出来るよう、知識・技術を習得している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消火器の使い方や避難経路など、全職員が理解している。しかし、地域との協力体制が十分でない。 (外部評価) 消防署の協力のもと、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など毎年1回実施し、夜間想定訓練も日中に行っているが、近隣の人たちとの避難訓練は実施していない。	※ ※	運営推進会議などで地域住民、町内会へ協力を呼びかけていく。 近隣の人たちに呼びかけ、協力して避難訓練の実施を実現することが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 個々のリスクはケアプランに取り上げ、家族に状態と対応策を説明している。また、状態の変化があった場合には、見直しを行い、家族に報告・説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 情報を共有する為に、申し送りは口頭と文書の両方で行なっている。また、細かな目配り・気配りを行い、異常の早期発見に努めている。異常発見時にはDrへ報告し、指示を仰ぎ、対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬について、間違いのない様管理はきちんと行なっている。処方箋の説明を読み、薬の用法など理解に努めている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 1日のトータル水分摂取量や乳製品の摂取など色々と考慮している。また、TV誘導時には、予め排便を促す声掛けを行い腹部マッサージ等行なっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを促している。一人一人の状態に応じて、見守り・仕上げ等行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量をチェックし、一日のトータルを把握している。また、献立は栄養士と相談して決定している。 (外部評価) 食事量や水分摂取量をチェックし、一日の全体像を把握している。献立は母体病院の栄養士に相談して決めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 予防対策を徹底している。家族・面会者に対しても手洗い、うがい・消毒を声掛けしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材の鮮度の確認、買いだめ・作りおきしないように注意している。調理用具は除菌、漂白を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にはプランターを設置し、季節の花を植えるなどしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 風鈴や、クリスマスツリーなどを活用し、家庭的で季節感のある生活の場となるよう工夫している。 (外部評価) 白とベージュを基調とした内装で落ち着いた雰囲気である。台所と一体化したリビングの南と東の大きく開いた窓から、カーテン越しに太陽光や風が入り、季節の花鉢が飾ってある。床暖房なので寒さ対策も十分に居心地よく過ごせる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング・廊下にソファを設置しており、個々の居場所づくりを支援している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 箆笥やテーブル、ベットなど自宅で使用していた物を持ち込み、これまでの生活が継続できるよう支援している。 (外部評価) 家族と協力して、本人の箆笥・テーブル・ベッド・家族の写真・花鉢・ぬいぐるみなどを持ち込み、好みを活かしてそれぞれ個性的で居心地いい居室となっている。		家族の方にも協力してもらい、思い出の品や写真などを目の届くところに置くなどしてその人らしく過ごせるよう配慮している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気はもちろん、温度・湿度にも注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全確保に配慮した上で、利用者が出来る限り自立した生活が営めるよう、椅子・テーブルの高さ、手すりの設置など工夫していく。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個々の理解力を把握し、個別の声掛け・支援を行っている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花を植えたり、日光浴が出来るよう配慮している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	アセスメントや日常の様子観察、本人の訴え等により把握できている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	お茶、おやつの時間など、一緒に過ごし、コミュニケーションをとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	テレビを見る、お話をする、居室で過ごす、家事を行うなど、個々のペースで過ごしており、それを支援している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛けに対する笑顔や、ケアに対する何気ない言葉が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の意向をくみ取り、添えるよう努力しているがその場の状況により完全とはいえない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	椿クリニックとの連携により、安心して過ごせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の状態に応じ、法人全体の多機能なサービスを提供する事で、安心して暮らせている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会回数の少ない家族の方に対しては、電話での情報交換のみとなっており、意見交換が十分でない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	昔なじみの友人なども面会に来られているが、地域の人々が訪ねてくることは殆どないのが現状。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の参加が少なく、地域と遅つながりが築けていない。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	風通しの良い人間関係が築けていない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の表情や、仕草、様子を見た上では満足していると思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ADLや認知レベルが低下してきている利用者の家族の方は言葉には出さないも、不満に思っていると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体が医療法人 椿クリニックなので、医療との連携がスムーズに行え、主治医や看護師、栄養士などの意見が蜜にきくことができ、結果的に入居者の落ち着いた生活につながっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに○を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム つばきの里

(ユニット名) つばきの里 2F

記入者(管理者)
氏名 泉本 厚子

評価完了日 19 年 5 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 誰が見ても理解しやすい言葉で理念を作り上げている。 (外部評価) 地域密着型サービスの役割を事業所独自の理念として作り上げ、分かりやすい具体的目標を玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 新しい職員もおり、全職員に理解できるように努力が必要。 (外部評価) 職員採用時には必ず理念について説明し、管理者・職員全員が理念を意識し、ミーティングで常に振り返り実践に活かしている。	※	毎朝の申し送り時に理念を言葉にし、確認・認識していく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への出席を近所の方、民生委員さん、自治会長さん等に声掛けを行い、少しずつ参加していただけるようになってきた。	※	運営推進会議への参加を増やしていく。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の際には、必ずこちらから挨拶を行っている。また、近所のパン屋・和菓子屋を利用し、顔なじみになっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 毎年、恒例行事としてそうめん流しを行っている。また、地域の盆踊りや夏祭りなどに参加している。 (外部評価) 「そうめん流し」などホームの行事はチラシで地域の人たちに呼びかけたり、自治会にも入会して地方祭に参加している。また、小・中学校の施設見学を受け入れるなど、地元の人々と交流に努めている。	※	アピールの方法を工夫し、気軽に参加してもらえるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 管理者が院生委員などにはたらきかけ、認知症・グループホームの事など理解していただくよう心がけている。	※	町内会・老人会などへの働きかけを積極的に行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の要改善点においては特に注意し、また、前回の評価で満足してしまわないよう努力している。 (外部評価) 職員各自で自己評価に取り組み、ミーティングで運営者・管理者も含め全員が検討し、サービスの向上につなげている。自己評価とともに外部評価の意義を理解し、結果を活かして改善へ向け取り組んでいる。		外部評価の説明会などに全職員が参加できるようにしていく。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月ごとに運営推進会議を行っている。 (外部評価) 市職員、地域包括支援センター、民生委員、利用者家族などを招き、2か月毎に開催し、ホームの紹介、ターミナル・ケアについて、参加者から質問や要望を聞き、サービスの向上に活かしている。	※	会議の内容について全職員が関わり、グループホーム全体の向上につなげていく。 地域住民の参加層を婦人会・老人会等にも呼びかけ、地域の中でのホームの働きの理解と協力が得られるよう、働きかけを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営をしていく上であるいは、サービスの提供について、分からない事があればお尋ねし、アドバイスいただいている。 (外部評価) ミーティングで挙げた課題について相談したり、ホームの現状について話し合うなどを通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については研修を受け、理解を深めている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等に参加し理解を深め、防止に努めている		虐待とは何か、1つずつ細かな点まで注意し、見過ごさない努力を重ねている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に細部にわたり説明を行い、納得いただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情処理の書類に記載し、今後の改善に役立てている。		利用者が不満を訴えやすい工夫をし、よりよい生活の場となるよう努力していく。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 来苑の際、ケアプラン等の説明を随時行っている。 (外部評価) 定期外にも家族の訪問の都度、利用者の日々の様子について写真や「ホーム便り」などを用いて話し、また健康状態など伝え、金銭出納簿の報告もしている。遠方の家族にはFAXで対応している。		特変があった場合、電話連絡を行い、即対応できるようにしている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来苑の際、近況報告かねて家族の意見を必ずお聞きするようにしている。 (外部評価) 訪問時や家族会時の食事会などで積極的にコミュニケーションをとり、和やかな雰囲気の中で意見や思い、不満を汲み取り、運営に反映させている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会・ミーティングの際、自由に意見を言える機会を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状況に合わせ、柔軟な対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の入れ替わりをできるだけ避け、新しい職員が入ったときには、他職員がフォローして馴染めるようにしている。 (外部評価) 勉強会や研修会で力をつけ仕事への自信につなげることで、離職を防いでいる。やむを得ず異動の場合は、職員間の引継ぎを密にし、利用者とのコミュニケーションをとり、不安を与えない配慮をしている。	※	職員の入れ替わりから来る不穏状態を引き起こさない工夫をしていく
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会を開き進めている。 (外部評価) パートを含む全職員参加を心がけて勉強会を持ち、母体病院院長を講師にターミナル・ケアの理解と医療体制に対する意識とケアの統一を図り、職員を育てている。		研修会等への参加も促している。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に他事業所の方に参加していただいたり、グループホーム連絡協議会の方に参加していただくなどして、交流を持っている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入し、研修内容をミーティングで報告し共有している。地域の他事業所と見学し合ったり、ボランティアによる指導や音楽療法を取り入れることで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体のミーティング・勉強会を通じ交流を図り、ストレスを理解している。運営者は、仕事上のストレスを少なくするべく、早めに見極め指示を出している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は日常の常務の報告をこまめに聞き、個々の職員の状態を把握しアドバイスしたり、勉強会・ミーティングを行い、向上心を持って働けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所対象者に事前に訪問していただき、その機会を作っている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居以前に必ず話し合いの場を作っている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同グループにデイケア・訪問看護ステーションも併設されている為、それぞれの部署の職員も交えて検討し、対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 何度も本人・家族と面談を行ったり、見学に来ていただくなどしている。また、入所前にショートステイを利用していただくなど工夫している。 (外部評価) 家族と密に連絡を取り、本人と共にホームの見学から始めたり、開設したショートステイの利用を奨めることから徐々に馴染めるように工夫している。		意見・情報の交換など、家族との連絡・連携を密にしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の能力に応じた内容のお手伝いをさせていただく中で、教えてもらう事も多いが、業務に追われがちなこともある。 (外部評価) 利用者は人生の先輩であるとの思いをもって、利用者には生け花を教えて貰ったり、食事の準備や後片づけなどを一緒にしている。散歩、入浴、買い物時のおしゃべりを楽しみ、支えあう関係を築いている。	※	ゆっくりと過ごす時間を1日の中でつくる。また、お手伝いしながら昔の事、今の事を比べるなど会話を増やし、学ぶ姿勢で接する。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場を設定している。来苑じには必ず近況報告している。遠方の家族さんにはFAXや電話でのやり取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 電話をするなど疎遠にならないように、また、安心できるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来やすい雰囲気づくりに配慮している。また、以前住んでいた近くをドライブするなどしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 居室に閉じこもりにならないよう配慮し、職員が間に入り関わる事で共同生活を支援している。		共同作業やレクリエーションを行うことで、利用者の長所をより多く引き出せるよう工夫している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居されてもこちらから面会に行ったり、家族の相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の生活の中から本人の希望を聞きだす、読み取るなどして、個々に合ったプランを作成している。 (外部評価) 入浴時や就寝前に利用者の担当職員による話し合いや送迎のおしゃべりから、訴えや要望、不安を個別に把握するよう努めている。		本人の希望や意向をさらに尊重し、散歩外出の機会を増やしていくなど取り組んでいる。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前に家族に生活歴など情報収集する。また、前利用施設からの情報も得ている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々のペース・リズムで生活している。職員間で情報を共有し、1日の観察・記録をする。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランを基に介護内容を確認。本人からの訴えがない場合は、日常会話・生活の中から理解していく。 (外部評価) 現在に至るまでの生活歴を参考に、本人・家族の思いや意見、要望を把握し、スタッフ会議で検討し、本人が自分らしく暮らせるよう、意見やアイデアを反映させた個別の介護計画を作成している。		つばきの里の職員だけでなく、看護師・ケアマネージャー・栄養士といった他職種の人とも意見交換できる場を設け、ケアプランの作成に役立っている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的な見直しだけでなく、変化に応じその都度スタッフ会議を行い、内容を把握している。 (外部評価) 定期的な見直しは3か月ごとに行っているが、日々の変化に応じ、本人・家族の要望や意見を取り入れ、現状とズレがないようその都度見直しを行っている。		職員だけでなく、家族の方を交えての計画作成に努めている
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日中・夜間共に、時間に沿った個別記録をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療機関が母体のため、その特性を活かし、個々に対応できるよう支援できている。 (外部評価) 本人や家族の状況とその時々々の要望に応じて職員がお見舞いしたり、同法人のデイケアや訪問看護による支援、近隣の高齢者のためにショートステイを開設するなど、多機能性を強化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防署立会いの下、消防訓練・避難訓練を行っている。また、音楽ボランティアを月1回行っている。		公園で遊ぶ子供を見る表情が優しい為、子供たちとの交流の場を増やせるよう工夫している。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 外出時はボランティアの支援をお願いしたり、デイケアの行事に参加していただいている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議にて意見交換している。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が医療機関のため連携が取れている。また、必要に応じ、他の医療機関に受診できるように対応している。 (外部評価) 運営方針である医療と介護の連携を図り、毎日利用者の健康状態を母体病院へ報告し、24時間体制をとっている。また、精神科、歯科医院の受診を支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 近くの心療内科や精神神経科の医師の診断や治療を受けられるようになっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体が病院の為、定期受診・経過を家族に報告している。また、看護師との協力体制ができています。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 母体が病院の為、協力体制にある。連携がとれ、早期対応できる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 対応マニュアルを作成しており、入所時に家族の方にも説明している。 (外部評価) 入居時に必ず本人と家族にターミナル・ケアについて説明している。母体病院院長作成のマニュアルを基に対応とケアについて、運営者、管理者全職員で学習会を持ち方針を共有している。		家族と看取りに関わる色々な部署の職員との話し合いの場を持ち、理解を深めている。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 随時、勉強会・ミーティングで話し合い、取り組める状態にある。		今後、職員一人一人の知識・理解を深めていく。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプランの内容を手渡し、情報交換している。		本人だけでなく、家族の方へのフォローも行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 人格を尊重し、個々に対応、さりげない声掛け言葉遣いに配慮している。 (外部評価) 管理者、職員はプライバシー確保の大切さをミーティングで確認し、十分理解しており、食事の介助もさりげなく支援しており、声かけや会話にも気をつけている。		プライバシーの保護、個人情報の取り扱いに十分注意している。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた声掛けを行っている。方言を利用する事で、本人の思いや希望を引き出し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の状態に応じ、無理なく希望に沿った支援を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの担当者が就寝前に話し合ったり、入浴時の話の中で本人の思いや不安を聞き、希望に添うよう支援している。		その人の生活暦などを知る事で、その人らしい過ごし方を支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的に美容院へ出かけ、本人の気に入る髪形としている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえ、配膳、盛り付け、食器洗いなど協力していただいている。 (外部評価) 利用者の誕生日の献立に好みを取り入れ、利用者職員は同じテーブルで会話を楽しみ、食前の盛り付けや食後の片付けを職員と一緒にやっている。		ただ食べるのではなく、会話をしながら楽しい雰囲気を作っている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、飲酒・喫煙所はないが、本人の希望があった場合には対応できるようにしている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、個々のパターンに合わせてのトイレ誘導を行っている。その際には、羞恥心などに配慮している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前に必ず声掛けを行い希望を聞いている。 (外部評価) 2日毎の午後入浴を基本にししながら、本人の希望を優先し、おしゃべりしながらリラックスして楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 年齢や体調に合わせて配慮している。また、お昼寝できるように声掛けしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 誕生日会を開いたり、花の植え替え、洗濯物干し・たたみの役割分担など、個々にあわせている。 (外部評価) 利用者の特技や好きなことを活かして、生け花を教えて貰い皆で生けたり、歌の好きな利用者同士で合唱することを支援している。毎年開催の運動会では、利用者が鉢巻をして楽しみ、張り合いとなっている。		外出の機会を増やし、気分転換の場を設けている。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 普段はホームが管理している。外出の際には個々に合った支援を行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 個々の状態に応じ、外出できるよう心がけている。 (外部評価) ホーム前のパン屋や近所の菓子屋に行ったり、スーパーでの買い物を楽しんでいる。また、散歩や公園に出かけ、数か月に1度の美容院通いも利用者の楽しみになっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の了解・協力を得て歌舞伎を鑑賞に行くなど支援している。		家族さんとの連携を密にし、協力体制をとっている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由に出来るようにしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間に制限は設けていない。訪問があった場合には配慮できている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会・ミーティングの中で身体拘束について理解できている。また、気付かないうちに身体拘束をしてしまっていないか確認しあっている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関・居室に施錠していない。常に利用者全員の位置を確認できている。 (外部評価) 玄関にセンサーを付けているが、職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者一人ひとりの行動パターンを把握したうえで居場所確認に努めている。		玄関にセンサーを設置しているが、それに頼る事のない様、見守りを行っている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間で声を掛け合い、把握できている。夜間は再々様子確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個々の状況にあわせて、保管・管理し、過剰管理にならないよう注意している。また、注意が必要な場合は職員が見守りを怠らない。		保管・管理する事が最適でない事を職員が理解している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 食事介助が必要でない方の誤嚥に注意、早期発見、早期対応でき、また予防していく為の勉強会に参加している。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当や初期対応の勉強会を母体にて開いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議の際、地域への協力を呼びかけている。また、消防署立会いの下、避難訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の協力のもと、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など毎年1回実施し、夜間想定訓練も日中に行っているが、近隣の人たちとの避難訓練は実施していない。	※	地域住民・町内会との協力体制を強化していく。 近隣の人たちに呼びかけ、協力して避難訓練の実施を実現することが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 遠方の家族が多いため、FAXや電話で連絡を取っている。また、面会時には近況報告をし、対応策など相談できている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 口頭だけでなく、申し送り事項に記入し、情報の共有をしている。体調チェック時には血圧・体温だけでなく、全身状態をチェックし、クリニックへ申し送りする事でDrの指示により早期対応できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認できている。また、処方箋の内容もいつでも確認・把握できるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表の活用、運動不足、食べ物等にも気を配っている。毎朝のトイ誘導時、腹部マッサージを行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを欠かさない。なるべく本人にさせていただくが、仕上げは職員が行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量のチェック表を活用している。献立については栄養士にチェックしてもらっている。 (外部評価) 食事量や水分摂取量をチェックし、一日の全体像を把握している。献立は母体病院の栄養士に相談して決めている。		献立がワンパターンにならないよう注意している。また、利用者の好みに対応し、メニューに加えている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎日、徹底し行っている。面会者に対しても手洗い・うがいを声掛けし、徹底している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具は除菌・漂白、食洗機を使用。食材の鮮度に注意し、作り置きをしない。冷蔵庫内の衛生に注している。栄養士からのチェック・指導もある。		作りすぎ、配膳・盛り付けなどの時間にも配慮し、食中毒の予防を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前には季節に応じて花の植え替えを行っている。毎朝掃除し、環境整備を心がけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夏は簾を使用するなどしている。常に清潔を心がけている。 (外部評価) 白とベージュを基調とした内装で落ち着いた雰囲気である。台所と一体化したリビングの南と東の大きく開いた窓から、カーテン越しに太陽光や風が入り、季節の花鉢が飾ってある。床暖房なので寒さ対策も十分で居心地よく過ごせる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下にソファがあり、自分の居場所を個々に見つけている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所以前から使用していた筆筒・鏡台・ベットを持ち込まれている。壁にはカレンダーや写真が張ってある。 (外部評価) 家族と協力して、本人の筆筒・テーブル・ベッド・家族の写真・花鉢・ぬいぐるみなどを持ち込み、好みを活かしてそれぞれ個性的で居心地いい居室となっている。		出来る限りこれまでの生活が継続できるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 湿度計・温度計を設置している。また、加湿器を設置し、室内の乾燥にも注意している。		床暖房・クーラーの設定温度に注意し、冷えすぎ、暖めすぎを予防し、快適に過ごせるよう支援している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴槽内の滑り止めマット・手すりの設置、座って靴の履き変えが出来るよう椅子の設置、ベットにも個々に合った手すりを設置している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室に手作りの表示をしている。また、さりげない声掛け・見守りを行っている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 演芸をしたり、洗濯物を干したり、ベンチを置いて座れるようにしてある。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	記録や情報の共有によりつかめている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時・15時のおやつ時には職員も手を空け、一緒に過ごせるようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示の困難な1名を除いては、個々のペースで生活できるよう配慮している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼすべての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛けや介助の際、「ありがとう」の声や表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出や散歩の声掛けに拒否される方が多い 行きたいところを訴える方がいてもマンツーマン対応が出来ないこともある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	母体である病院の支援があり、家族共に安心されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の状態に応じ、法人全体の他機能のサービスを提供する事で、安心して暮らせている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入所以前より、本人と疎遠な家族があり、信頼関係より任せっぱなしのところがある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	家族の方以外にはほとんど来られない。

	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない ④全くいない	住宅地域のためまだつながりが少ない。
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員間のコミュニケーションが上手く行えている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	意思表示が困難な方からは表情や毎日の生活を通じ、満足していただいていると判断できる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	家族の方より「ありがとう」、「表情が明るく元気になった」などの言葉もらっている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
 (自己評価)